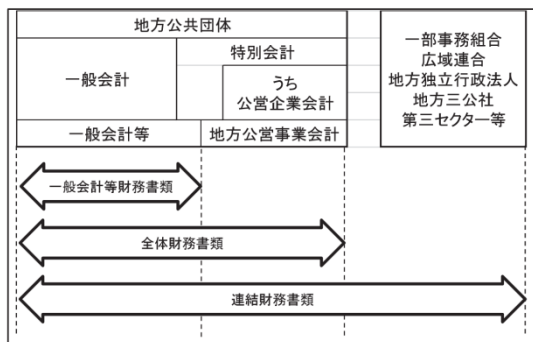


今帰仁村 統一的な基準による財務書類4表（令和2年度決算）

統一的な基準に基づく財務書類は、原則として平成27年度から平成29年度までの3年間ですべての地方公共団体に
 において作成するように要請されています（平成27年1月23日付総務大臣通知「統一的な基準による地方公会計の整
 備促進について」より）。

これを受け、今帰仁村では平成28年度決算より統一的な基準による財務書類4表（貸借対照表、行政コスト計算書、
 純資産変動計算書、資金収支計算書）を作成しました。

対象とする会計範囲



| 会計区分 | 会計名称 |
|-------------|----------------|
| 一般会計等 | 一般会計 |
| 公営企業（法適用） | 水道事業会計 |
| 公営事業（その他） | 国民健康保険特別会計 |
| | 後期高齢者医療特別会計 |
| 一部事務組合・広域連合 | 沖縄県後期高齢者医療広域連合 |
| | 沖縄県介護保険広域連合 |
| | 北部広域市町村圏事務組合 |
| | 本部町今帰仁村消防組合 |
| | 沖縄県市町村総合事務組合 |
| | 沖縄県市町村自治会館管理組合 |
| | 沖縄県町村交通災害共済組合 |
| | 本部町今帰仁村清掃施設組合 |

統一的な基準では、「連結財務書類」の作成についても求められています。その対象となる会計は、地方公共団体の一般会計
 のみならず、公営企業会計をはじめとする特別会計、一部事務組合・広域連合、地方三公社、第三セクター等を含めること
 となっています。

今帰仁村における対象会計は、上図のとおりです。

① 貸借対照表

今帰仁村の財務書類4表（一般会計等）

| 科目 | | 金額 | |
|-------------|-------------------|------------------|-------------------|
| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
| 固定資産 | 25,915,119 | 固定負債 | 2,759,293 |
| 有形固定資産 | 24,464,227 | 地方債 | 2,572,647 |
| 事業用資産 | 9,613,408 | 長期未払金 | 0 |
| インフラ資産 | 14,592,628 | 退職手当引当金 | 125,906 |
| 物品 | 258,192 | 損失補償等引当金 | 0 |
| 無形固定資産 | 3,382 | その他 | 60,740 |
| 投資その他の資産 | 1,447,510 | 流動負債 | 475,647 |
| 流動資産 | 992,279 | 1年以内償還予定地方債 | 338,001 |
| 現金預金 | 396,670 | 未払金 | 0 |
| 未収金 | 24,934 | 未払費用 | 0 |
| 短期貸付金 | 5,480 | 前受金 | 0 |
| 基金 | 566,317 | 前受収益 | 0 |
| 棚卸資産 | 0 | 賞与等引当金 | 49,899 |
| その他 | 0 | 預り金 | 49,188 |
| 徴収不能引当金 | △ 1,122 | その他 | 38,559 |
| | | 負債合計 | 3,234,940 |
| | | 【純資産の部】 | |
| | | 固定資産等形成分 | 26,486,916 |
| | | 余剰分（不足分） | △ 2,814,458 |
| | | 純資産合計 | 23,672,458 |
| 資産合計 | 26,907,398 | 負債及び純資産合計 | 26,907,398 |

※財務書類より主要科目を抜粋しています。

※単位未満を四捨五入しているため、金額が一致しない場合があります。

貸借対照表とは

貸借対照表は、会計年度末に保有している資産と、
 その資産を取得するために使ったお金の調達方法を
 表しています。現金の収支に注目する決算書では把
 握することができない財産や負債等、これまでの資産
 形成の結果を知ることができます。

今帰仁村の現状

これまでに今帰仁村では、26,907,398千円の資
 産を形成してきています。そのうち、純資産である
 23,672,458千円はこれまでの世代が負担してきた
 金額であり、負債である3,234,940千円は将来の
 世代が負担していくことになります。

純資産比率 87.98%

資産総額に占める純資産の割合です。現世代でど
 のくらい既に支払ったかを示す指標です。

（純資産比率＝純資産合計23,672,458千円÷資産総額
 26,907,398千円）

資産：学校や道路等の将来世代に引き継ぐ社会資本や、
 投資、基金等将来現金化することが可能な財産の総額。

負債：地方債の残高や退職手当引当金などの総額。将来
 世代が負担する金額。

純資産：公共施設整備の財源として受けた補助金や地方
 税等の総額。これまでの世代が負担してきた金額。

②行政コスト計算書

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 |
|----------|-----------|
| 経常費用 | 6,788,438 |
| 業務費用 | 3,466,693 |
| 人件費 | 1,113,771 |
| 物件費等 | 2,321,476 |
| その他業務費用 | 31,446 |
| 移転費用 | 3,321,745 |
| 補助金等 | 2,271,930 |
| 社会保障給付 | 704,060 |
| 他会計への繰出金 | 339,460 |
| その他 | 6,294 |
| 経常収益 | 219,021 |
| 使用料及び手数料 | 45,233 |
| その他 | 173,788 |
| 純経常行政コスト | 6,569,417 |
| 臨時損失 | 103,262 |
| 臨時利益 | 0 |
| 純行政コスト | 6,672,678 |

※財務書類より主要科目を抜粋しています。

※単位未満を四捨五入しているため、金額が一致しない場合があります。

行政コスト計算書とは

行政サービスを提供する際に発生する支出のうち、資産の取得（土地や建物の購入等）にかかわらない経常的な支出と、行政サービスの対価として得られた収入を計上しています。

今帰仁村の現状

経常費用が経常収益を上回っていますが、これは行政コスト計算書の収入には行政サービスの直接的な収入のみを計上しているためです。

経常収益から経常費用を引いた純経常行政コストは、6,569,417千円になります。これに臨時損失と臨時利益の差額を加えた純行政コストは、6,672,678千円となり、この不足分は、村税、地方交付税や国・県補助金等の財源で賄っています。

住民一人当たり行政コスト 71万6千円

住民一人当たりどれくらいの行政コストがかかっているのかを表します。

(住民一人当たり行政コスト＝純行政コスト 6,672,678千円÷人口 9,322人

【令和3年1月1日時点の人口】)

人件費：職員給与や議員報酬、退職給付費用（当年度に退職手当引当金として繰入した額）等の総額。

物件費等：備品購入費や消耗品費、委託料、施設の維持補修に係る経費、減価償却費等の総額。

その他の業務費用：支払利息、外郭団体の営業外費用等の総額。

移転費用：住民への補助金、社会保障給付等の総額。

経常収益：使用料や手数料、財産貸付収入、預金利子、雑入等の総額。

臨時損失：災害復旧に要した費用、資産除売却によって発生した損失等の総額。

臨時利益：資産の売却によって得た利益等の総額。

③純資産変動計算書

(単位：千円)

| 科 目 | 合計 | 固定資産 等形成分 | 余剰分 (不足分) |
|----------------|-------------|--------------|--------------|
| 前年度末純資産残高 | 24,013,857 | 26,820,687 | △ 2,806,830 |
| 純行政コスト | △ 6,672,678 | | △ 6,672,678 |
| 財源 | 6,790,972 | | 6,790,972 |
| 税収等 | 3,560,309 | | 3,560,309 |
| 国県等補助金 | 3,230,663 | | 3,230,663 |
| 本年度差額 | 118,294 | | 118,294 |
| 固定資産等の変動（内部変動） | | 8,876 | △ 8,876 |
| 有形固定資産等の増加 | | 1,172,122 | △ 1,172,122 |
| 有形固定資産等の減少 | | △ 1,295,794 | 1,295,794 |
| 貸付金・基金等の増加 | | 754,257 | △ 754,257 |
| 貸付金・基金等の減少 | | △ 621,709 | 621,709 |
| 資産評価差額 | △ 7,150 | △ 7,150 | |
| 無償所管換等 | △ 342,587 | △ 342,587 | |
| その他 | △ 109,956 | 7,090 | △ 117,046 |
| 本年度純資産変動額 | △ 341,399 | △ 333,771 | △ 7,628 |
| 本年度末純資産残高 | 23,672,458 | 26,486,916 | △ 2,814,458 |

※財務書類より主要科目を抜粋しています。

※単位未満を四捨五入しているため、金額が一致しない場合があります。

純資産変動計算書とは

貸借対照表の純資産の部について、増加要因と減少要因を計上し、純資産が1年間でどのように変動したのかを示しています。

今帰仁村の現状

純資産が昨年度よりも増加した場合は、負債の増加より資産の増加の方が多かったことを示しています。

純資産の増加要因には、行政サービスの対価として支払われる以外の収入（税収や国県からの補助金等）があり、減少要因には、行政コスト計算書で算出される純行政コストや有価証券の評価減額等があります。

財源：村税、地方交付税や分担金・負担金といった税収等の金額と国や県からの補助金の総額。

固定資産等の変動：公共施設等の有形固定資産及び貸付金・基金の増減内訳。

資産評価差額：有価証券等の評価差額。

無償所管換等：無償で譲渡または譲受した固定資産の評価額等の総額。

④資金収支計算書

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 |
|-----------------|-----------|
| 【業務活動収支】 | |
| 業務支出 | 5,591,486 |
| 業務費用支出 | 2,269,741 |
| 移転費用支出 | 3,321,745 |
| 業務収入 | 4,038,242 |
| 税金等収入 | 3,300,992 |
| 国県等補助金収入 | 516,886 |
| 使用料及び手数料収入 | 46,549 |
| その他の収入 | 173,816 |
| 臨時支出 | 0 |
| 臨時収入 | 1,973,859 |
| 業務活動収支 | 420,615 |
| 【投資活動収支】 | |
| 投資活動支出 | 1,853,219 |
| 公共施設等整備費支出 | 1,163,091 |
| 基金積立金支出 | 688,028 |
| 投資及び出資金支出 | 0 |
| 貸付金支出 | 2,100 |
| その他の支出 | 0 |
| 投資活動収入 | 1,607,353 |
| 国県等補助金収入 | 739,918 |
| 基金取崩収入 | 558,049 |
| 貸付金元金回収収入 | 1,220 |
| 資産売却収入 | 13,519 |
| その他の収入 | 294,647 |
| 投資活動収支 | △ 245,866 |
| 【財務活動収支】 | |
| 財務活動支出 | 391,455 |
| 地方債償還支出 | 349,449 |
| その他の支出 | 42,006 |
| 財務活動収入 | 283,531 |
| 地方債発行収入 | 283,531 |
| その他の収入 | 0 |
| 財務活動収支 | △ 107,924 |
| 本年度資金収支額 | 66,825 |
| 前年度末資金残高 | 280,657 |
| 本年度末資金残高 | 347,482 |
| 前年度末歳計外現金残高 | 46,270 |
| 本年度歳計外現金増減額 | 2,918 |
| 本年度末歳計外現金残高 | 49,188 |
| 本年度末現金預金残高 | 396,670 |

※財務書類より主要科目を抜粋しています。

※単位未満を四捨五入しているため、金額が一致しない場合があります。

資金収支計算書とは

貸借対照表の現金が1年間でどのように変化したのかを表しています。現金の使いみちによって、「業務活動収支」「投資活動収支」「財務活動収支」の3区分に分け、どのような行政活動にいくら使ったのかを示しています。

今帰仁村の現状

資金収支計算書から算出したプライマリーバランスの額は、318,826千円となっています。令和元年度の行政活動は税金や国・県からの補助金等で賄えたことを示します。また、財務活動収支が△107,924千円であり、地方債の発行よりも多く償還できたことを示します。今後も計画的な地方債の償還等に努めます。

基礎的財政収支（プライマリーバランス） 318,826千円

自治体の基礎的な財政力を示します。具体的には地方税や使用料、国・県からの補助金等による収入総額と、行政サービスの提供及び公共施設整備等にかかる支出総額を差引したものです。ここでは地方債と基金にかかる収支を除くため、マイナスであればその年度の行政活動は税金や補助金等だけでは賄い切れなかったことを示します。

(基礎的財政収支 = 業務活動収支 420,615千円 + 投資活動収支 △245,866千円 + 基金積立金支出 688,028千円 - 基金取崩収入 558,049千円 + 支払利息支 14,098千円) ※単位未満を四捨五入しているため、金額が一致しない場合があります。

業務活動収支：行政サービスを行う中で、毎年継続的に収入・支出される金額。

投資活動収支：学校、道路等の公共施設整備や投資、貸付金などの収入・支出等の金額。

財務活動収支：地方債等の借入・償還等の金額。

一般会計等

住民一人当たり資産額 288万6千円

住民一人当たりの資産額を示します。

(住民一人当たり資産額 = 貸借対照表 資産総額 26,907,398千円 ÷ 人口 9,322人【令和3年1月1日時点の人口】)

住民一人当たり負債額 34万7千円

住民一人当たりの負債額を示します。

(住民一人当たり負債額 = 貸借対照表 負債総額 3,234,940千円 ÷ 人口 9,322人【令和3年1月1日時点の人口】)

債務償還可能年数 2.5年

地方債残高に対して、行政サービスを維持した状態で、全てを償還するのにかかると思われる年数です。

(債務償還可能年数 = (貸借対照表 地方債総額 2,910,648千円 - 貸借対照表 基金総額 1,867,030千円) ÷ 資金収支計算書 業務活動収支 420,615千円)

老朽化比率 55.17%

償却資産（建物、工作物）の取得価額に対する減価償却累計額の割合を求めると、老朽化の進行度合いを表します。老朽化比率が高いほど建て替えや改修などのコストがかかる時期が近いことを示します。

(老朽化比率 = 減価償却累計額 25,996,072千円 ÷ 貸借対照表 償却資産 47,122,790千円)